

平成 25 年度第 2 回 地域福祉計画地区推進会議

【南部地区】（議事概要）

- 日 時 平成 26 年 3 月 27 日（木） 18：30～20：00
- 場 所 行徳文化ホール I & I 第 1・第 2 会議室
- 出席者
 - 各地区委員 : 18 名
 - 社会福祉協議会 : 4 名
 - コミュニティワーカー : 2 名
 - 地域福祉支援課 : 7 名
 - 保健センター : 1 名

- 配布資料
 - 《 事前送付資料 》
 - ・資料 1 地区別計画検討状況（南部）
 - ・資料 2 第 6 期介護保険事業計画における日常生活圏域の考え方
 - ・ご連絡 地域ケアシステム拠点機能について

 - 《 会議資料（机上配布） 》
 - ・会議次第
 - ・参考 地区推進会議委員名簿

- 協議内容
 - 開会宣言
 - 課長挨拶
 - 職員紹介
 - 資料の確認

- 次第 1 第 3 期地区別計画について

- 事務局
 - 地区推進会議の位置づけの確認
 - 地域福祉計画の概略の説明
 - 《資料説明 ご連絡 地域ケアシステム拠点機能について》

- 《方向性 1 身近な場所での活動の場の確保・充実》

事務局

南部地区の社協担当職員として、現状や課題について、お気づきの点をご紹介いただきたい。

社協 山本氏

方向性1ということで、南部地区の動きとの事であるが、ぜひ地域の方々からお話を伺えればと考えている。

このところ、行徳地区で2箇所のサロンが立ち上がり、1年近くを経過し活発に活動をしている。行徳歌声サロンと行徳ふれあい健康サロンの状況について、お話いただければ。

行徳地区社協会長 金井委員

行徳地区においては、ちょうど1年になるが、毎月2つのサロンを開催している。

行徳ふれあい健康サロンについて、今回は認知症についての問題ということで、行徳総合病院の医師を招き、講演をしていただき、その後、質疑応答や茶話会を和気藹々とした雰囲気の中で行っている。サロン終了後には、相談員やブロック長で、次回に向けた話し合いを持つようにしている。

また、塩焼中央公園の管理棟を会場として、行徳歌声サロンを開催しているが、これについては、最初の30分程度を手芸や折り紙といったものを楽しんでから、茶話会で歓談し、その後、昔懐かしい童謡等を歌い、その中にギターの演奏や踊りの披露といった余興も取り入れている。

この2つのサロンについては、26年度も年間計画を立てて、継続していく予定である。

事務局

行徳地区では、昨年度から2つのサロンが立ち上がったとの事で紹介いただいた。また、行徳ふれあい健康サロンについては、各自治会の会館を持ち回り会場とすることにより、幅広い地域の方々の参加を呼びかけていると伺っている。

行徳地区社協会長 金井委員

だいたい自治会館を持ち回りでやっているが、それ以外にもI&Iや、病院の紹介でりそな銀行の会議室を利用するということもある。

前は、伊勢宿の自治会館で開催したが、65名以上の参加者があり、会場に入りきれないほどの活況であった。病院の講演内容も非常に役立つことから、大勢の高齢者が参加している。

事務局

自治会館を持ち回りで会場とするということは、他の地区では見られない形態であったので、紹介いただいた。

また、行徳ふれあい健康サロンについては、病院とのコラボという市内でも初めての試みであり、りそな銀行の会議室を活用したりと、病院をはじめとした様々な地域資源を活用いただいております、他の地区の参考になるものと思われる。

南行徳地区においては、以前よりサロン活動が活発であり、サロンの数も市内最多

となっている。活動が活発になる分、逆に課題となってきたことや、新たな方法といったところでご紹介いただければ。

南行徳地区社協会長 高本委員

先日、地域ケア推進連絡会を開催し、サロン等について今年度の活動の評価を行った。25年度においては、サロンを20箇所まで増やそうということを目指したが、現在のところは19箇所、達成には及ばなかったが及第点といったところである。ただ、子育てサロンが進んでいないという点が課題となっている。

また、個人的には、各自治会単位でのサロン活動が広がっていくと、より身近なところで参加しやすいようになるのではと考えている。規模が小さくなったとしても、小さいところから広げていったらよいのでは。

事務局

サロンが増えているが、子育てのサロンが増えていないという点が課題であるということと、また、より気軽に参加できるように、自治会単位でもサロンができればよいのではというご意見を紹介いただいた。

また、南行徳第8ブロックでも、課題があると伺っている。

南行徳地区 第8ブロック 程塚委員

第8ブロックでは、まちかど健康サロンという場所を主に会場としているが、スタートしてからかなりの年数も経過し、内容でも太極拳やフラダンス、水彩画といったものも増えてきて、てるぼサロン以外のものも出てきている。

先日、スポーツ課より、参加者名簿の提出を求められた。サロン活動としては、はまかぜ合唱団や日曜サロンといったところでは、参加人数を把握し報告していたところであるが、今年度から取り扱いが変わったとのことで、参加者名簿の提出をとのことであった。これについては疑問に感じており、当施設は特定の活動団体が占有してはならず、誰でも入れるようにとのことで協議を重ねてきた経緯がある。そのような中で、名簿の提出を求められるということは、腑に落ちない感がある。

活動をする上では、常設の場所があれば、より活動の幅が広がるように日頃から考えており、検討いただきたい。

南行徳地区社協会長 高本委員

南行徳地区の活動を長年支えていただいていた前会長の歌代委員からもご意見をいただければ。

南行徳地区 第5ブロック 歌代委員

先日、相談員やブロック長、福祉委員等が出席する南行徳地区の地域ケア推進会議に出席したが、これを毎月開催するというのは、様々な情報が入るということもあり非常に有益なことである。

25年度の取り組みの評価については、先ほど高本委員から報告のあったように、概ね良しとのことであった。順調に進んできていると感じている。第8ブロックの課題については、今後検討し、行政側にも何かしらの対応を求めていこうと考えている。

南行徳地区 第4ブロック 田中委員

この件に関連して、毎月サロンには30名程度が参加しており、始めて11年が経過し、参加者の3分の2が80代であり、60代、70代は若手な状況である。年月の経過とともに、歩いて会場に向かうのがだんだん困難になってきており、買い物も近所で済ませることが多く、会場である学校まで行くのは距離的にも厳しい状態となっている。最近では、ブロックの中でもより細分化し、参加できる場を身近にしていく必要も感じている。

南行徳地区 第5ブロック 歌代委員

資料にもあるように「自治会単位での活動の場を活用する」ということで、縮小ということではなく、広いブロックの中では、自治会単位での活動に誘導していくようなことが必要となってくるのではないかと感じている。

事務局

程塚委員からは、普段の活動の場から、これまでと違った取り扱いが導入されたことにより、やりづらさを感じているとのことであった。その点については、現場で使いやすい方向を検討するため所管課に確認していきたい。また、常設で使用できる場所ということについても、以前からご意見をいただいております。現在、様々な協議を進めていることから、今後、ご意見をいただきながら、より良い方向を目指していきたい。

歌代委員からは、毎月地域ケア推進連絡会を開催することにより、地区の情報交換・共有ができてきていることと、歩いて通えるより身近なところとして自治会単位でも活動する場ができれば良いのではとのご意見を伺った。これについては、先ほどの行徳地区の自治会館の持ち回りで会場とすることも参考になると感じている。

南行徳中部地区民生委員会 村上委員

社協の地区担当に確認しておきたいことがあるが、空き店舗や個人宅の活用について、南行徳の元喫茶店が空き店舗となっており、そちらに3ヶ月に1度程度、風通しをしている。中には自転車置いてあるだけということもあり、井上コミュニティワーカーにその活用について、検討や調整していただければと話していた。南行徳中部地区は、東西線から旧道の方まで非常に広域な地域となっており、例えば、南行徳駅付近の方が旧道のいこいの家などに行くのは、非常に難しい。地区社協の催しを南行徳公民館などで開催するとしても、なかなか歩いていけないということが考えられる。個人的には、空き店舗として放置しておくのはもったいないと感じていることから、活用について協力を申し入れていただければと考えている。

社協 山本氏

その件については、今後、打ち合わせをさせていただき、同行等をさせていただきながら、活用について検討を進めていきたい。

南行徳地区 第3ブロック 齊藤委員

自治会の役員というのは、2年で交代することから、地域ケアシステムそのものがあまり理解されていないようで、もう少し理解が進めば活動がしやすくなるのではないかと感じている。

いかと感じている。また、理事の中には、このような仕組みは不要ではと考えている方もいるが、自分たちは各自治会に申し入れて援助を受けながら活動していることから、もう少し自治会と緊密な連携が取れば良い。例えば、自治会館などで地域包括支援センターや介護保険の仕組みといったことについて、説明会など開催していただければ、家族を介護している方も参加しやすいのではと感じている。

事務局

村上委員からは、地域における空き店舗、そのような情報をいただきながら社協も行政も活用に向けて働きかけていければと感じている。

また、齊藤委員からは、自治会の役員の方の任期が短いことから地域ケアシステムの理解が進んでいないのではないかとしたこと、自治会とより緊密な連携が取ればとのことであった。ご指摘いただいた、介護保険の使い方や地域包括支援センターの仕組みといったことの説明会などは、ご要望をいただきながら適宜、ご協力していきたい。

事務局 野口課長

身近なところでの活動場所は、必要性を認識している。

介護保険制度の改正にともない、介護予防の考え方として、現在、65歳以上で介護認定を受けていない方を対象として、基本チェックリストというものを送付し、回答いただいた内容からリスクの高い方に介護予防教室などをご案内している。介護予防の考え方が、身近なところに歩いていって閉じこもりを予防するなど、日頃の活動・身近な活動というところに、方向性が見直されている。これまで地域の活動が行政側として介護予防とリンクしていなかったが、今後制度として介護予防につながっていくということを意識しながら、第6期の介護保険事業計画の策定に取り組んでいきたい。いただいたご意見にもあったが、身近な場所で通える場所を増やしていくことを目指し、今後ご協力いただきたい。

また、地域包括支援センターなど制度的な説明などについては、ぜひ、お声をかけていただき、例えばサロンの中で紹介していくなど、協力していきたい。

行徳地区 第4ブロック 嘉福委員

市川市では、健康都市ガーデニングに力を入れているようであるが、そのような方面との連携も検討してはどうか。

事務局 野口課長

ご指摘の部門とも協議をしている。今後、どのように進むかは不明であるが、先日、傾聴の関係の大学教授を招いて、回想法についてご紹介いただいた。昔のことを思い出しながら話すことで、認知症や物忘れの予防に役立つということで、そのような取り組みを今後進めていくという企画もあり、そのようなものとどのように連携していくかを検討している。例えば、活動場所の提供や、地域活動の担い手の研修などに取り入れて、サロンなどでやっていただくといった方法なども考えられる。具体的な形としては、今後検討していくところであり、庁内の中でも連携を図っていきたい。

《方向性2 担い手の確保・育成》

事務局

担い手の確保・育成について、伺いたい。

社協 山本氏

資料にあるとおり、地域の役割分担として、「地区社協でボランティアの登録制を導入する。」ということがある。南行徳地区においては、実際に地域ケアシステムの拠点に自分の特技を活かしてボランティア活動をしたいといった申し出があった。これを受けて、ボランティアの登録制について、毎月の推進連絡会で諮って、新たな仕組みの導入に至ったところであるが、現在のところ登録者はまだいない状態である。このように南行徳地区では、新たな仕組みを導入し、次にどうしていくかという段階にある。

また、社協が進めているお互いさま事業について、これをもう少し身近なところでの活動につなげていく必要がある。先ほどもご意見があったが、なかなか広域だと参加するのが困難であることもあり、今後、身近な地域での仕組みについて意識しながら支援していきたい。

事務局

南部地区の取り組みについて、まとめていただいた。

事務局 野口課長

今後の介護保険の制度改正において、生活支援サービスについて、要支援1・2の方々が介護予防サービスから地域支援事業に移行していくことになる。これは、現行のサービス、例えばヘルパーやデイサービスといった介護予防のサービスが、地域支援事業としてサロン活動等を含めて、基本的に同じ内容を実施できるよう目指していくということである。

市川市においては、地域づくりの支援ということでコミュニティワーカーが活動しているが、介護保険における生活支援の基盤づくりにおいてもコーディネーター機能が求められている。資料にあるとおり、ニーズを把握し、サービスを創出し、マッチングを行い、必要な方につなげていくといった活動をする基盤を作っていくということであり、今後、市川におけるコミュニティワーカーの活動について、介護保険制度と連携しながら、機能的に拡充していくことも検討していく必要がある。今後、国の制度としてコミュニティワーカーと同じような機能も位置づけられていくことについて、報告させていただいた。

《方向性3 地域のつながり・ネットワークの充実》

事務局

地域のつながり・ネットワークの充実ということで、例えば、他の地区やブロックなどと情報交換をしたり、連携を図るといった取り組みなどがあれば、伺いたい。

南行徳地区第8ブロックでは、第1ブロックの定例会議の視察を検討しているとい

った話も伺ったが。

南行徳地区 第8ブロック 程塚委員

第1ブロックでは、隔月くらいで定例会を開催していると聞いており、今後、視察をしていきたいと考えている。

南行徳の第8ブロックでは4自治会がある。先ほどの議論の中で、より身近な活動を目指すうえで地区の細分化といった考えもあったが、当地区の団地という特性を考えると、いかに地区の活動に参加させていくかが課題となっており、地域性が若干異なるものと感じている。

震災時において、塩浜地区は被害が生じたこともあり、毎年3月11日前後に塩浜団地4自治会連絡協議会という会合を開き、学校や保育園、高齢者クラブといったところや社協、行政まで、一堂に会しているが、そういったところで地域福祉がしっかり根付いていけば良いと考えている。

事務局

第8ブロックでは、震災での被害を契機として、自治会間の連携強化につなげ、そこに地域福祉という観点からも踏み込んだ支援が必要となっているということで、ご意見をいただいた。そのうえで、他の地区の活動を参考として、積極的に取り入れて活動の幅を広げていくことを目指しているとのことである。

他に、他の地区との連携に向けたお考え等があれば伺いたい。

社協 山本氏

特に行徳地区で2つのサロンが立ち上がり、今後さらに活動を展開していこうという動きを紹介したが、行徳総合病院との共催で毎月場所を変えながらサロンを開催しているという中で、来年度から行徳地区だけではなく、例えば隣接する南行徳地区とも一緒にできれば、より多くの方々に集まっていただけるのではといったご意見も伺っている。

行徳地区社協 副会長 阿部委員

行徳総合病院の担当者と協議して、行徳駅前のりそな銀行の会議室などを利用したりもしており、駅前ということであれば南行徳地区とも一緒にできればという話を進めている。ただ、病院は来年度7月の開設に向けた準備もあるため、毎月の参加は困難であるということから、別のところにも声をかけたりしている。また、行徳駅前の商店街のグループとの話の中では、商店街の店舗を使ってサロンをしたら、商店街の活性化にもつながるのではないかとといった話も出ている。例えば、サロンに参加した方を対象に特売などをすれば、サロンへの参加と同時に商店街への客足も増えるのではといった提案もあり、どこまで協力できるのかを検討しているところである。

空き店舗については、商工会などには閉店した店舗の情報などもあることから、そういったところを活用していけば、どこにどういった店舗があるのかが把握できるのではないかと。

行徳地区は、これまであまり活動がなかったところであるが、昨年からはサロンを立ち上げ、これまでの参加人数は延べ400人以上に上っており、成功していると感じている。今後、力を入れていこうと考えているのは、男性をいかに参加させていくかと

いう点である。南行徳地区の男性料理教室についてもいろいろと伺っているが、行徳地区では、なかなか良い場所がない。行徳公民館にも話をし許可は得ているものの、実際に資金繰り等を含めた運営方法の検討が今後の課題となっている。また、いろいろと活動したいと考えている人材はいるので、そのような中から自分の特技などを活かして地域での活動に参加するように働きかけていければと検討をしている。

事務局

商店街のコラボの企画等、今後の展開が期待されるので、進展があったらぜひ情報提供いただきたい。

また、男性をいかに地域活動に引き込んでいくかという点については、地区に関わらず皆さん共通の課題となっている。他の地区では、男性料理教室を平日ではなく土日に開催することで、現役世代の参加も増えたといった事例もある。

行徳地区 清水委員

自治会との折衝という話もあったが、自治会には自治会としての活動範囲がある。自分が住んでいるマンションには、体育館や広い集会スペースがあり、申し込みさえすれば利用できる環境にある。今年で4年目になるが、こういった施設を活用し、「歌声喫茶」を開催している。これは、歌声クラブという活動があり、高齢者が7割、若い世代が3割程度で、講師も住人の親戚が務めてもらっている。第1回目は、マンション住人を対象として100人弱の参加があり、2回目は外部の方も30人程度参加し、120人程度の参加があった。参加者をマンション住人に限定しないことで、知り合いに声をかけることが進んだものと思われる。11月3日に開催することとしており、昨年は、外部の方の参加も増えて140人程度の規模となった。会費は300円徴収しており、それはお茶や茶菓子に使っており、それ以外については別途徴収している。こういったPRの方法もあると思われる。

また、自分の自治会では、毎週太極拳や手芸といった5種類の活動を年間通して開催している。こういった活動について広域化を図ろうということで、大町の方で梨狩りなども開催している。昼食については、大町の動植物園の食堂に協力を仰ぎ、参加人数分の弁当の用意してもらい、食堂でも外でも自由に食べられるようにした。これについても、近隣の自治会に声をかけるというのではなく、口コミで自由に参加者を募っており、このやり方で10年近く活動しており、このような方法も参考になればと紹介させていただいた。

事務局

口コミで参加者が増えていくという点で、共通の趣味や仲間から活動の展開が広がっていくということを紹介いただいた。

南行徳第8ブロックでは、ゆうこう在宅介護支援センターと協働でサロンというか、相談会などを企画しているといった話を伺っているが。

南行徳地区 第8ブロック 程塚委員

第8ブロックでは、日曜サロンなど毎週の活動も多くあるため、そのような中から相談を受けることが結構ある。ゆうこう在宅介護支援センターには、昨年、今年と在宅介護者の集いを開催してもらった。そのような流れから、団地から出て相談に行く

ということがなかなか難しいこともあるため、4月から月に1度でも良いので、場所を借りてゆうこう在宅介護支援センターに来てもらい、介護などの相談に乗ってもらうような形で検討を進めている。毎週ということも難しいので、まずは月1度から始めてみようと考えている。

事務局

ゆうこう在宅介護支援センターは塩浜地区を担当しているが、月に1度の出前相談といったものの企画を紹介していただいた。

また、サロン活動で相談を持ちかけられるということもあるということで、普段の活動が参加する方々の見守りや、安心感や居場所作りといったところにつながっているように思われる。

行徳地区 第5ブロック 千葉委員

自治会長を長く務めた経験があるが、その当時、地域ケアシステムやサロンといった活動について、何でもかんでも自治会に任せてどうなのかといった疑問の声が聞こえたことがある。昨年からは、行徳地区でも歌声サロンが始まり、大変盛況であり成功していることに驚いた。これは、やはり自治会の会長が中心となって取り組んでいるということであり、自分の経験としてはそれほど動いていなかったと反省している。自治会が民生委員と協力していけば、このように成功していくということに感心している。

なお、現在NPOの法人で様々な活動をしているが、その中で市が行っている市民税1%の支援制度に長らく参加しているが、1年間の活動が終了した後、翌年は別の事業を実施することとなる。以前の事業を止めるわけではないので、支援を受けずに自前で継続しており、サロンが増えている。現在、期待しているのは「わいわいサロン」ということで、以前1%の支援を受けていた事業で、目標としていたのは外に出たがらない男性に集まってもらおうということであった。当初、固い内容の活動であったためあまり参加者が集まらなかった経緯を受けて、2年目からは遊びの要素を取り入れて、カラオケやマーじゃん大会といったことも取り入れた。そうしたところ、通常の活動は1時から4時までということであるが、マーじゃんの日は、それでは足りないといった意見があり、大変楽しみにされている。このような経験から、遊びを取り入れるのは、非常に良いことであると感じている。歌声サロンにしても、歌を歌うという遊びにつながっており、人の気持ちを明るくするというのが一番良い。現在はサロン活動を出張開催なども企画しているが、遊びを取り入れた活動が成功していることを報告させていただいた。

事務局

遊びの要素を取り入れた企画を通じて、男性の参加にもつながったとの事例を報告いただいた。

《方向性4 PR活動の充実》

事務局

地域活動のPR活動として、紹介できる取り組みなど発表いただきたい。

南行徳地区 第6ブロック 小川委員

第6ブロックと南行徳北部地区の民生委員が共催で、毎年春休み前に新浜小学校と福祉コンサートを開催している。毎回、200名前後の高齢者やPTAなどが参加しており、高齢者施設などからも足を運んでいただいている。各学校の校長先生の考え方にも左右されるが、この企画については音楽の先生方の協力も得られ、これまでのところは順調である。また、地域の民謡活動をしている方も参加いただき、三味線を披露いただくなど、学校と地域の連携がうまくいっている。

南行徳地区社協会長 高本委員

南行徳地区では、4年前に福祉教育推進校の指定を受けて、県と市からの補助金・助成金を活用し、福祉講演会等を開催してきた。今年は4年目ということで補助金等とはなくなったが、学校との連携で福祉講演会、軽スポーツ大会を継続していこうということになった。福祉講演会については、200から300名が参加し非常に盛況であった。軽スポーツ大会については、福栄中学校のグラウンドや体育館を利用し開催したが、子供から高齢者まで500名程度の参加があった。このような機会を通じて、目に見える形で地域ケアシステムのPRを図っていければと考えている。

事務局

福祉教育推進校の指定を受けたことで、学校と地区社協がコラボして様々な活動を展開しているということであった。今年については、指定も終了したものの、これまでの活動でできたつながりから、福祉講演会や軽スポーツ大会も継続していくこととなったとのことである。先日の福祉コンサートにはケーブルテレビの取材があったが、そのようなイベントなどにおいて、地域ケアシステムや地区社協のPRをしていけば、普段の活動がより広がっていくものと思われる。

社協 山本氏

南行徳地区も行徳地区も地域ケアシステムの拠点で、車椅子や補聴器の貸し出しを行っているが、行徳地区は車椅子の貸し出しはこれまで1件もなかった。これもなかなか情報が行き渡っていないことも原因であると思われる、サロンのチラシに拠点で貸し出しを行っているということを掲載しているが、まだまだ周知していく必要がある。南行徳地区においては、非常に貸し出し件数も多い。

南行徳地区 相談員 高橋委員

南行徳の拠点は南行徳公民館内にあり8人の相談員が配置のはずであるが、現在は5人で回している。午前10時から午後4時までの間、直接来所する方や電話で問い合わせなども多く、常時2台から3台の車椅子を配備している。先日は、桜の花見などに行きたいということで問い合わせがあった。拠点や行徳支所のボランティアセンターで貸し出ししていることについては、インターネットや様々なところから情報を得るなどして、知られてきているように思われる。

また、先ほどの男性料理教室については、相談員がスタッフとして、材料の準備や

メニュー作りなど携わっているが、入船や宝など行徳地区からの問い合わせが増えて
いる。社会福祉協議会の広報紙によるPR効果もあったものと思われる。

事務局

相談員の方々によるチラシの配布や参加者の口コミなどにより、別の地区からの参
加も増えてきたということである。

また、車椅子の貸し出しを通して、拠点の場所や地域ケアシステムについて、広が
ってきているようにも思われる。

社協のホームページを見て、身近な拠点がどこにあるのかを調べて、直接問い合わ
せをしたりということも考えられる。

南行徳地区 第5ブロック 歌代委員

チラシ作成など社協が協力してくれるので、相談すると良い。

■次第2 日常生活圏域の考え方について

事務局

《資料説明 資料2 第6期介護保険事業計画における日常生活圏域の考え方》

■次第3. その他

事務局

事務連絡

- ・来年度の地域ケアシステム推進事業予算について
- ・報償費について
- ・議事録について

保健センター 挨拶

終了